

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2021年1月13日
【四半期会計期間】	第45期第1四半期（自 2020年9月1日 至 2020年11月30日）
【会社名】	株式会社クラウディアホールディングス
【英訳名】	KURAUDIA HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 倉 正治
【本店の所在の場所】	京都市右京区西院高田町34番地
【電話番号】	075(315)2345
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画部長 安田 佳悟
【最寄りの連絡場所】	京都市右京区西院高田町34番地
【電話番号】	075(315)2345
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画部長 安田 佳悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第1四半期連結 累計期間	第45期 第1四半期連結 累計期間	第44期
会計期間	自2019年9月1日 至2019年11月30日	自2020年9月1日 至2020年11月30日	自2019年9月1日 至2020年8月31日
売上高 (千円)	3,877,284	1,965,400	8,272,181
経常利益又は経常損失 () (千円)	732,406	328,870	2,061,232
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (千円)	491,030	228,963	2,367,374
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	493,400	225,264	2,367,998
純資産額 (千円)	6,063,242	3,380,389	3,155,124
総資産額 (千円)	12,961,600	15,449,085	14,610,832
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 () (円)	56.35	26.13	270.66
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.78	21.88	21.59

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第44期第1四半期連結累計期間及び第45期第1四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、第44期は1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当企業グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症に係る2020年4月から5月の緊急事態宣言の解除後、受注状況、施行状況ともに徐々に回復傾向にはあるものの、新型コロナウイルス感染症の拡大は収束しておらず、当企業グループを取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このような環境のもと、当企業グループはお客様と従業員の安全を第一に感染防止対策に取り組みつつ、引き続き婚礼衣裳メーカーとして“ものづくり”をコアとし、より最終消費者に近く、より大きなマーケットである挙式関連サービス事業領域(B to C)の開拓を推進し、当企業グループの市場拡大に向け注力しております。

当第1四半期連結累計期間に行った主な事業展開としましては、内田写真株式会社において、2020年9月に「ホテルメトロポリタン秋田 写真室」(秋田県秋田市)を、同年10月には「静岡浅間神社 写真室」(静岡市葵区)を新規オープンいたしました。

当企業グループは単一セグメントであるためセグメント別の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間における事業部門別売上高の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間 (自2019年9月1日 至2019年11月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自2020年9月1日 至2020年11月30日)	増減	増減率 (%)
ホールセール事業部門 売上高	755	431	324	42.9
製・商品売上高	304	180	124	40.9
レンタル収入等	451	251	199	44.3
コンシューマー事業部門 売上高	3,121	1,534	1,587	50.9
衣裳取扱収入	1,233	573	660	53.5
リゾート挙式売上高	625	142	483	77.2
式場運営収入	715	496	218	30.6
写真・映像・美容売上高	546	321	225	41.2
連結売上高	3,877	1,965	1,911	49.3

上記の売上高の数値につきましては、事業部門内及び事業部門間の取引消去後となっております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、2020年4月から5月の緊急事態宣言期間中の受注獲得が難航したことや、挙式・披露宴の日程延期やキャンセルが発生したこと等により、1,965百万円(前年同期比49.3%減)と、前年同期に比べて大幅な減収となりました。

利益面につきましては、広告宣伝費や人件費を中心に販売費及び一般管理費の削減に努めましたが、減収に伴う売上総利益の減少分を吸収するには至らず、営業損失は311百万円(前年同期は711百万円の利益)となりました。

また、雇用調整助成金等による助成金収入585百万円を営業外収益に計上したことにより、経常利益は328百万円(前年同期比55.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は228百万円(同53.4%減)となりました。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,083百万円増加し、6,680百万円となりました。これは主に、現金及び預金1,049百万円、受取手形及び売掛金270百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ245百万円減少し、8,768百万円となりました。これは主に、繰延税金資産84百万円の減少、貸倒引当金69百万円の増加によるものであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ838百万円増加し、15,449百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ244百万円増加し、8,262百万円となりました。これは主に、短期借入金400百万円の増加によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ368百万円増加し、3,806百万円となりました。これは主に、長期借入金366百万円の増加によるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ612百万円増加し、12,068百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ225百万円増加し、3,380百万円となりました。これは主に、利益剰余金228百万円の増加によるものであります。この結果、自己資本比率は21.9%となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当企業グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当企業グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,000,000
計	19,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年11月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年1月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,689,200	9,689,200	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,689,200	9,689,200	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

記載事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

記載事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

記載事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年9月1日～ 2020年11月30日	-	9,689	-	1,071,590	-	1,102,138

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 928,000	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,752,000	87,520	同上
単元未満株式	普通株式 9,200	-	-
発行済株式総数	9,689,200	-	-
総株主の議決権	-	87,520	-

【自己株式等】

2020年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社クラウドディアホールディングス	京都市右京区西院高田町34番地	928,000	-	928,000	9.58
計	-	928,000	-	928,000	9.58

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2020年9月1日から2020年11月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年9月1日から2020年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PWC京都監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,005,914	5,055,363
受取手形及び売掛金	524,369	795,105
商品及び製品	186,637	154,394
仕掛品	46,701	53,361
原材料	236,031	225,735
貯蔵品	91,089	84,985
その他	544,009	317,144
貸倒引当金	37,447	5,236
流動資産合計	5,597,305	6,680,853
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,369,125	6,361,852
減価償却累計額	4,095,893	4,145,802
建物及び構築物(純額)	2,273,232	2,216,050
機械装置及び運搬具	468,331	468,218
減価償却累計額	414,234	420,467
機械装置及び運搬具(純額)	54,097	47,750
工具、器具及び備品	957,712	961,563
減価償却累計額	794,162	809,421
工具、器具及び備品(純額)	163,550	152,142
レンタル衣裳	537,983	438,016
減価償却累計額	274,536	222,118
レンタル衣裳(純額)	263,447	215,897
土地	2,693,141	2,693,141
建設仮勘定	4,323	4,263
有形固定資産合計	5,451,792	5,329,246
無形固定資産		
ソフトウェア	36,948	47,751
借地権	11,965	11,642
その他	37,632	21,555
無形固定資産合計	86,546	80,949
投資その他の資産		
投資有価証券	15,884	17,408
保険積立金	338,822	343,077
差入保証金	2,606,849	2,579,340
繰延税金資産	308,914	224,725
その他	325,457	384,156
貸倒引当金	120,741	190,672
投資その他の資産合計	3,475,188	3,358,035
固定資産合計	9,013,527	8,768,231
資産合計	14,610,832	15,449,085

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	209,331	231,178
短期借入金	5,750,000	6,150,000
1年内返済予定の長期借入金	1,029,852	1,004,859
未払法人税等	19,241	18,167
賞与引当金	14,064	10,091
その他	995,778	848,364
流動負債合計	8,018,268	8,262,662
固定負債		
長期借入金	2,725,629	3,092,141
長期末払金	407,121	407,042
繰延税金負債	7,798	9,261
資産除去債務	266,231	266,929
その他	30,660	30,660
固定負債合計	3,437,440	3,806,033
負債合計	11,455,708	12,068,695
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,071,590	1,071,590
資本剰余金	1,218,107	1,218,107
利益剰余金	1,209,529	1,438,493
自己株式	565,525	565,525
株主資本合計	2,933,701	3,162,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	322	527
為替換算調整勘定	221,745	217,196
その他の包括利益累計額合計	221,423	217,724
純資産合計	3,155,124	3,380,389
負債純資産合計	14,610,832	15,449,085

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)
売上高	3,877,284	1,965,400
売上原価	785,321	440,841
売上総利益	3,091,963	1,524,559
販売費及び一般管理費	2,380,398	1,835,856
営業利益又は営業損失()	711,565	311,296
営業外収益		
受取利息	2,333	2,538
受取配当金	18	-
受取賃貸料	2,005	1,707
受取手数料	4,123	1,237
為替差益	693	-
助成金収入	4,773	585,327
その他	15,756	67,971
営業外収益合計	29,703	658,783
営業外費用		
支払利息	3,783	9,200
為替差損	-	9,344
支払補償費	4,935	-
その他	143	71
営業外費用合計	8,862	18,615
経常利益	732,406	328,870
特別利益		
保険解約返戻金	-	37
特別利益合計	-	37
特別損失		
固定資産除却損	237	-
特別損失合計	237	-
税金等調整前四半期純利益	732,168	328,907
法人税、住民税及び事業税	156,250	14,665
法人税等調整額	84,887	85,279
法人税等合計	241,137	99,944
四半期純利益	491,030	228,963
親会社株主に帰属する四半期純利益	491,030	228,963

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益	491,030	228,963
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	565	850
為替換算調整勘定	1,804	4,548
その他の包括利益合計	2,369	3,698
四半期包括利益	493,400	225,264
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	493,400	225,264
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積もりについて重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
有限会社貸衣裳東陣	159千円	2,098千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2020年11月30日)
減価償却費	96,112千円	83,961千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2019年9月1日 至2019年11月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月26日 定時株主総会	普通株式	87,136	10	2019年8月31日	2019年11月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自2020年9月1日 至2020年11月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当企業グループは単一セグメントであるためセグメント別の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	56円35銭	26円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	491,030	228,963
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	491,030	228,963
普通株式の期中平均株式数(株)	8,713,667	8,761,137

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年1月13日

株式会社クラウドディアホールディングス

取締役会 御中

P w C 京都監査法人
京都事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 矢野 博之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 橋本 民子 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クラウドディアホールディングスの2020年9月1日から2021年8月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年9月1日から2020年11月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年9月1日から2020年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クラウドディアホールディングス及び連結子会社の2020年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と

認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。